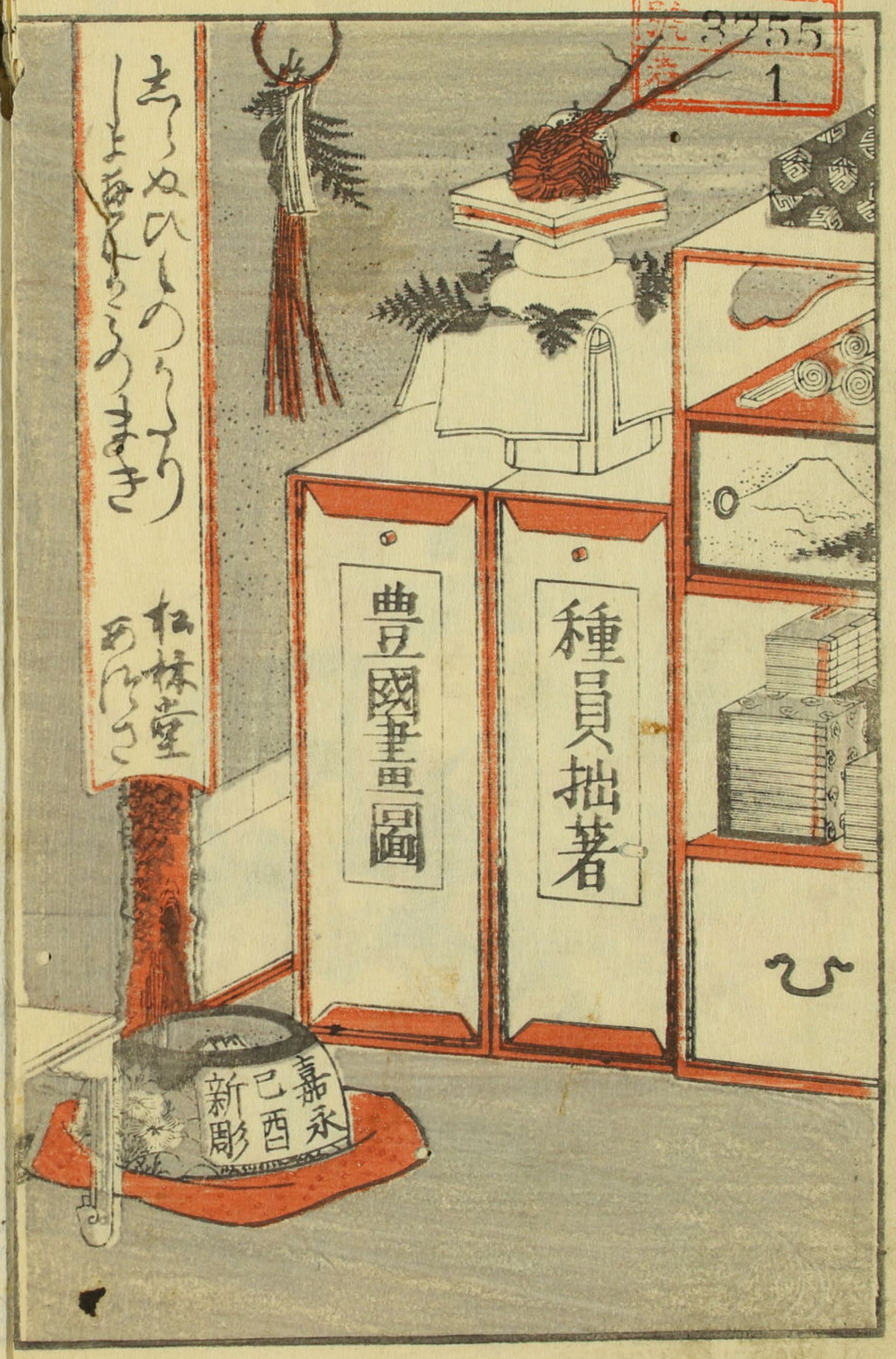
Gôkan:(No. 013)
Shiranui Monoga
Part 1, Book 1-

へ 13
3755
1

きぬぬひ
とのうら

初編上

門へ13
3755
1



自叙

皇朝の紫式部源氏物語を綴て一身地獄の苦を受漢土の品維賀中水滸の小説を著して子孫三世牛馬となる寓言妄語を作るなり教誡

昌平坂学問所

為の何程なるも記し地獄の隨筆祭も孫が

昌平坂学問所

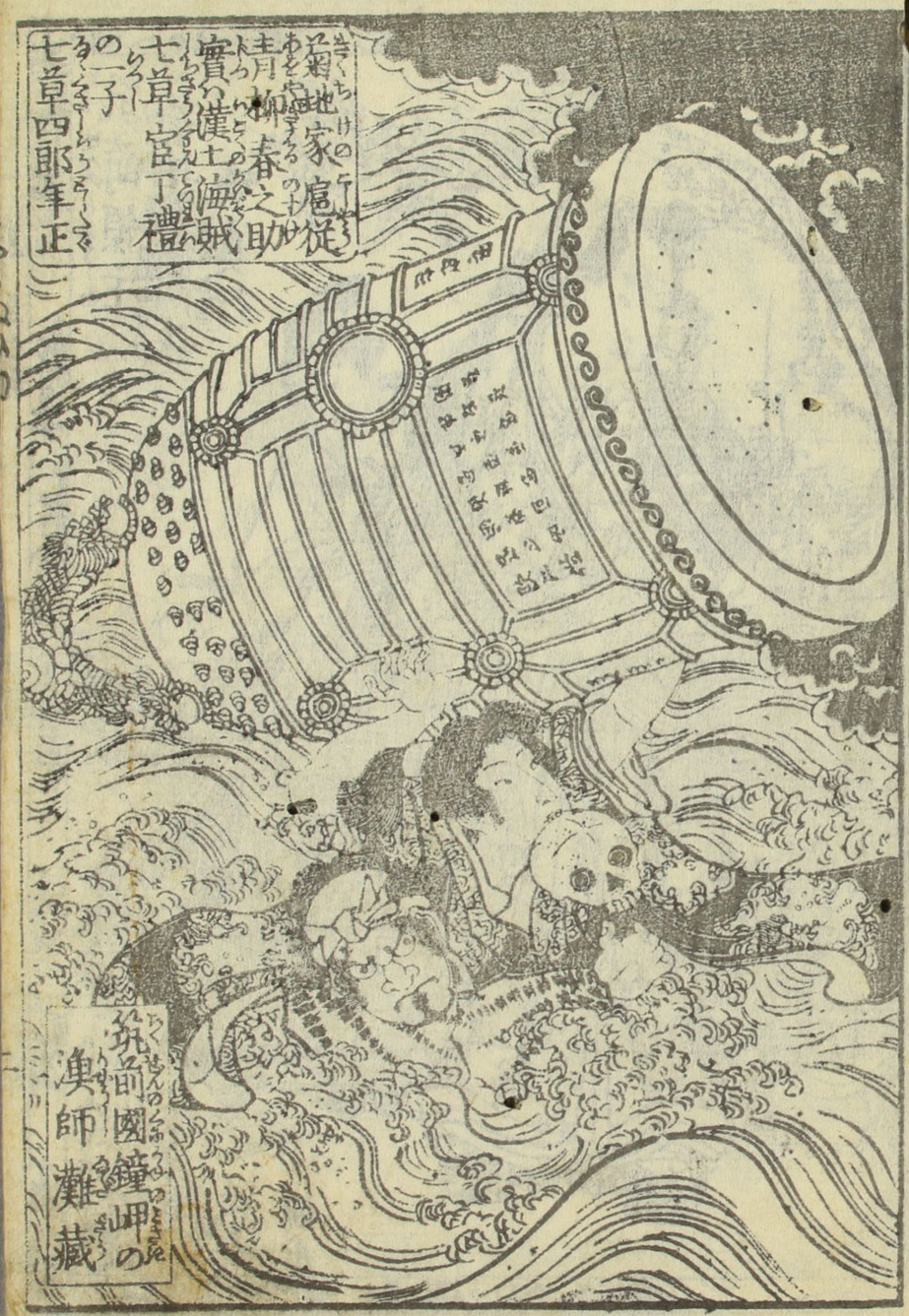
あけつる神史の賀歳儀の時節もあり七草四郎若菜嬢子豆撒き除夜の鐘も孫も地名も怡西海の紫沖の鐘岬と冊巻の評判郷貴の

難とも乗れと正月詞

嘉永一年己酉歳孟陬發市　柳下亭種員

等しくて序文も祝ひ言のそあく述

豐後國城主大友入道宗麟の女若菜嬢子


地家扈從
春之助
漢土海賊
七草宦丁禮
七草四郎年正
筑前國鐘岬の漁師灘藏

月詣集
博多柳町の傾城獨鈷屋船越
后と貞行の愛妾
於筆の方
奥州家
岩根

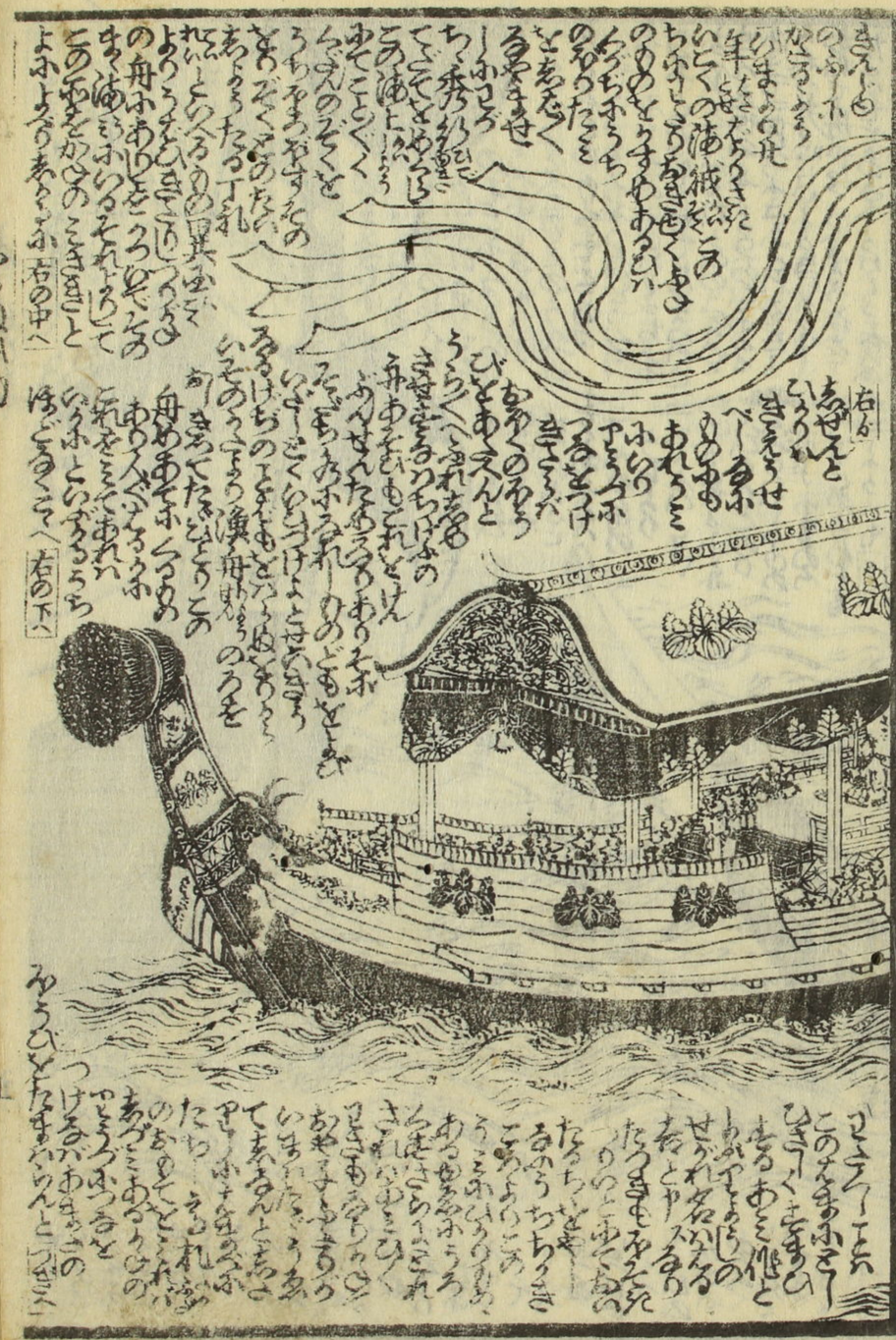
新地右衛門佐
貞行
菊地家
蔭澤夏之丞
二編出

源順
百代集
めくるる
ゆえ
ちるを
あやぐく
ちりぬるを
けふこそ
時辺ふ
つるの葉
描てあ

菊地家扈従
鳥山秋作
二編出

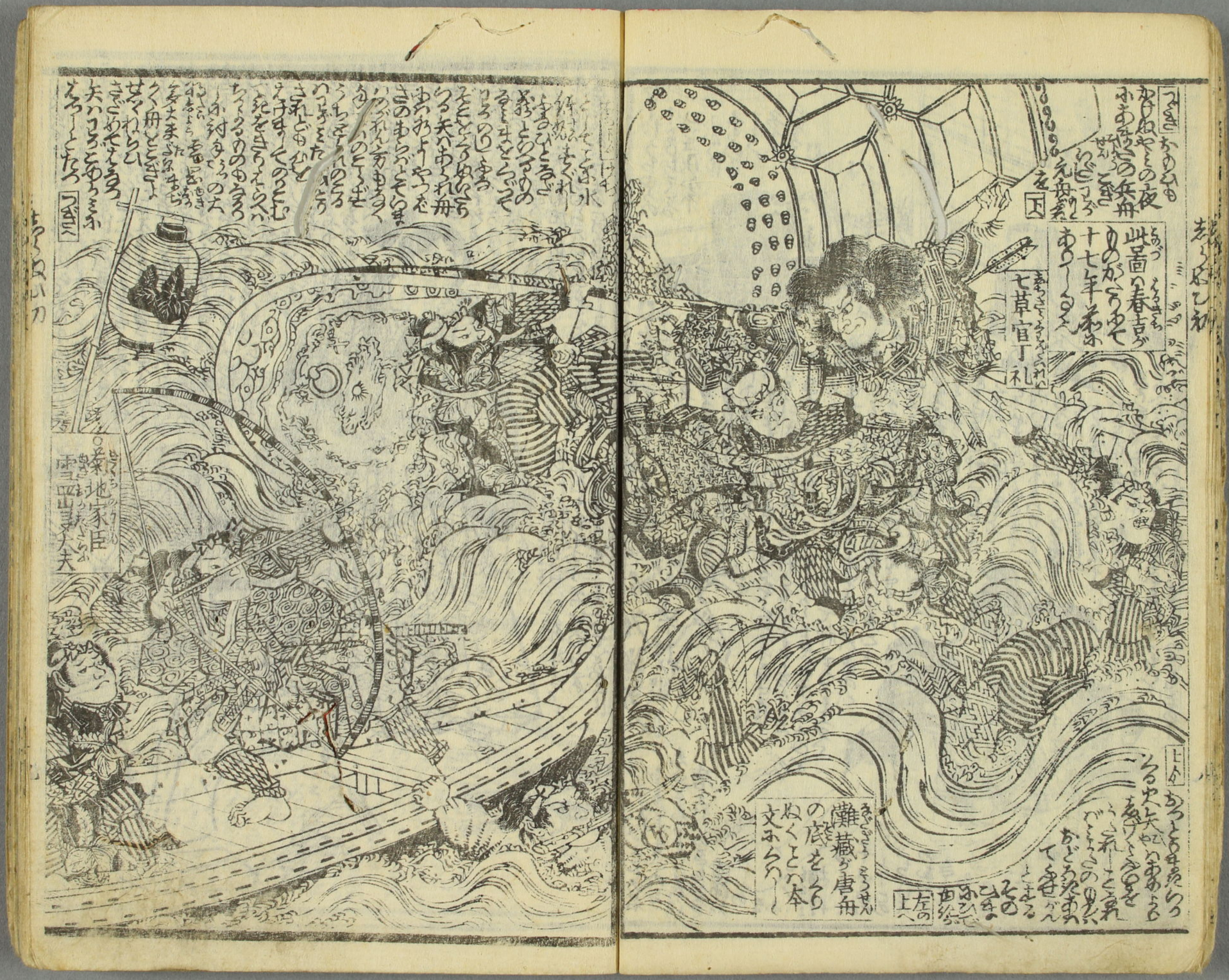
同
雪山冬治郎
二編出

香椎宮
海の中ノ丸
水茎山
袖の湊
乾坤丸
博多湊
生松原



左の中へ

右の中へ


七草官丁礼
難藏唐舟の戯をうつし
ぬくとい本文ふくろ

掘作が丸ぞ

嘉永己酉初春新鐫目録

實入秋花野苅萱 初編三編 柳亭種員筆 雄齋國輝画

妻ハ白縫 妾ハ篠江

源氏雲弦月 初編二編 柳亭種員譯 三編 男齋國芳画

新編歌俳百人撰 仮入 柳亭種員著 一冊 香蝶樓豊國画

輪廻 ひとくるわ 中本同 三巻同 作画

兄ハ漂髪 弟ハ放駒 忠孝雙蝶々 二編同 出板両年延引 未成春より出板

桀 合 咄 六編種員作 七編豊國画 当春出板

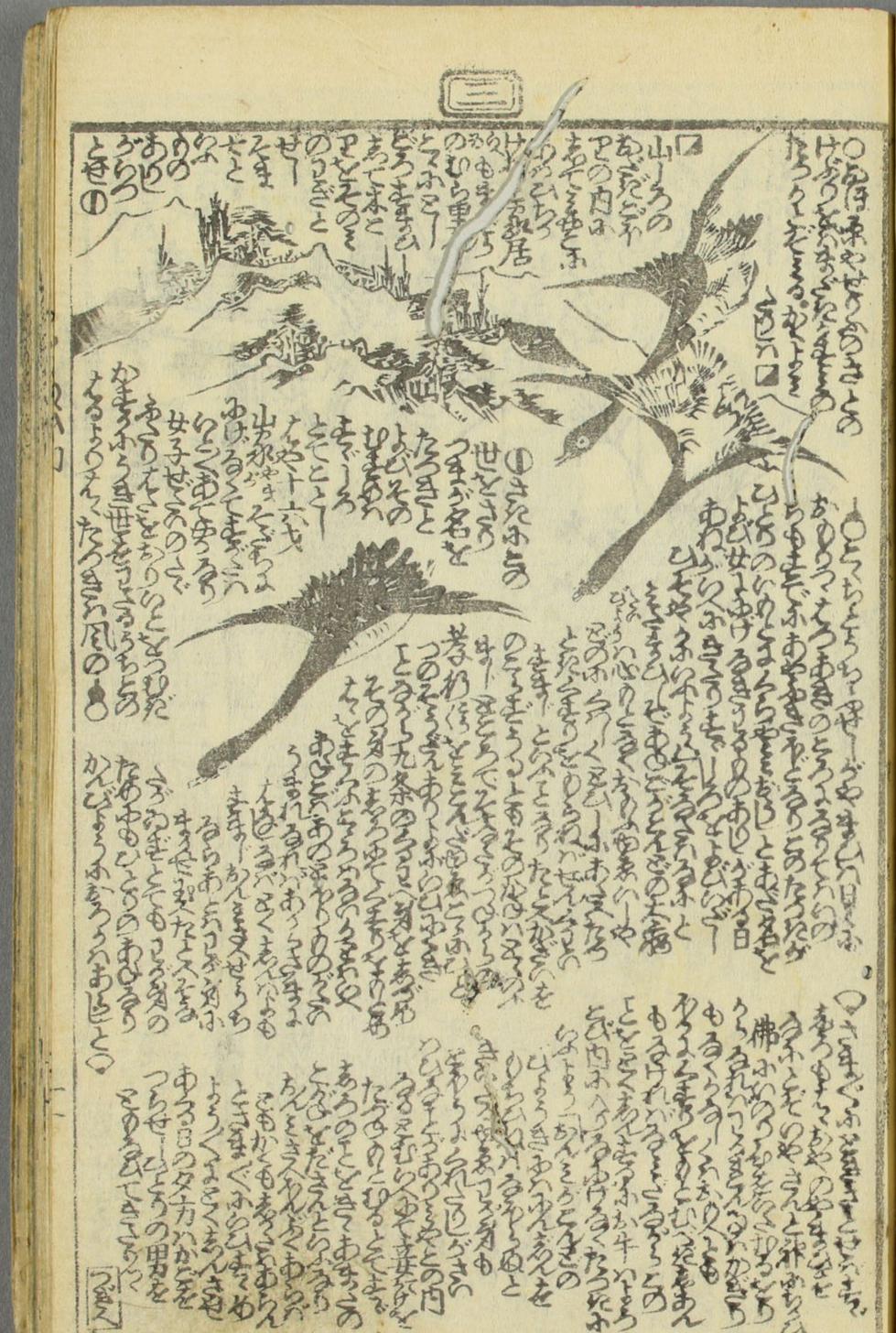
難言討妙々車 初編同 二編同 未成出板

良敏大物合戦 小本 士農工商 見立もど六 大嶋堂猫嫁入 同 春遊全盛もど六 種員作 当春出板

地本類東錦画大安賣 通油町 松林堂 藤岡屋慶治郎

初編下

初編
下冊
通油町
門人 国貞画
種員作
豊國画
嫌岡屋 梓

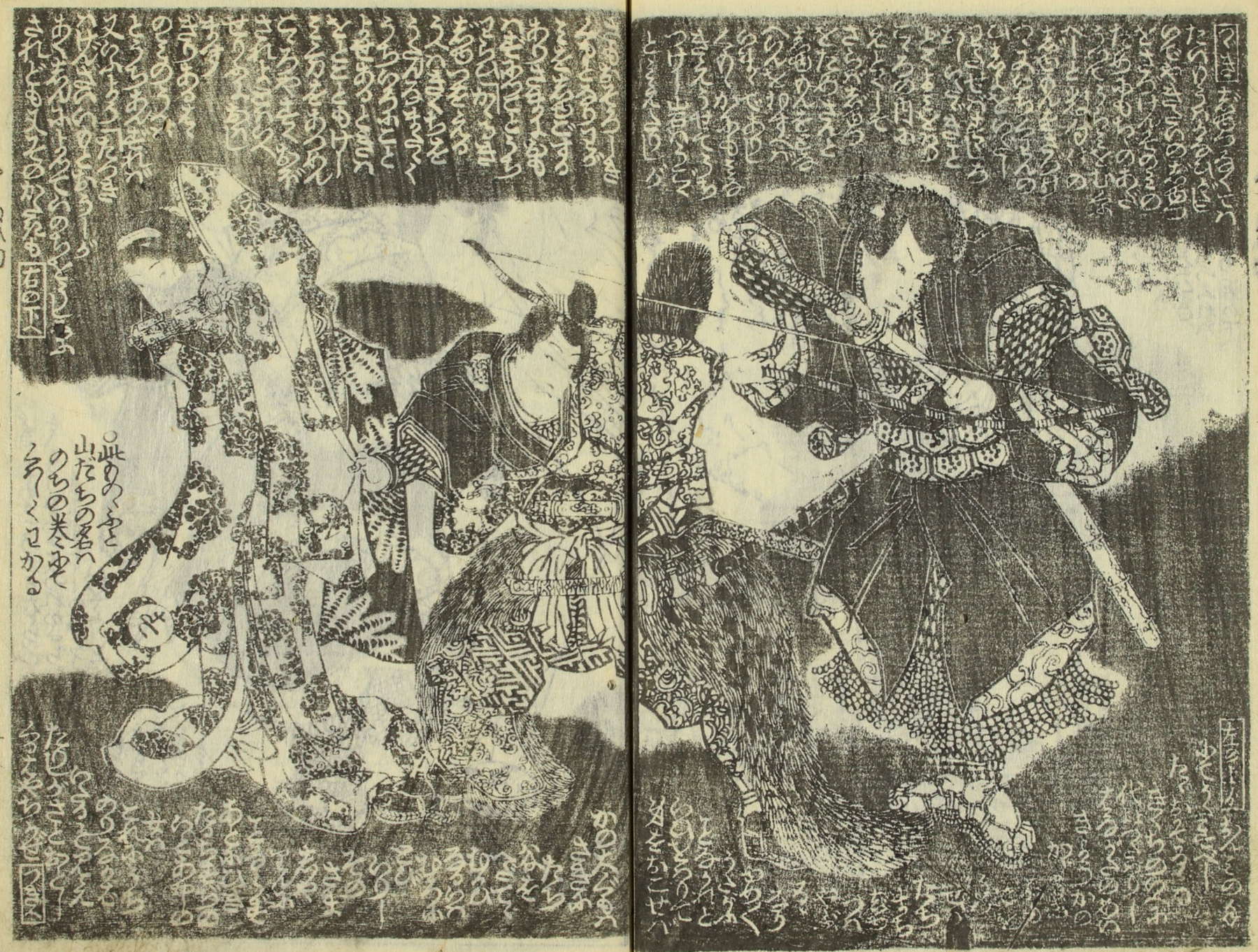


左の中ノ
右の下ノ
つぎハ

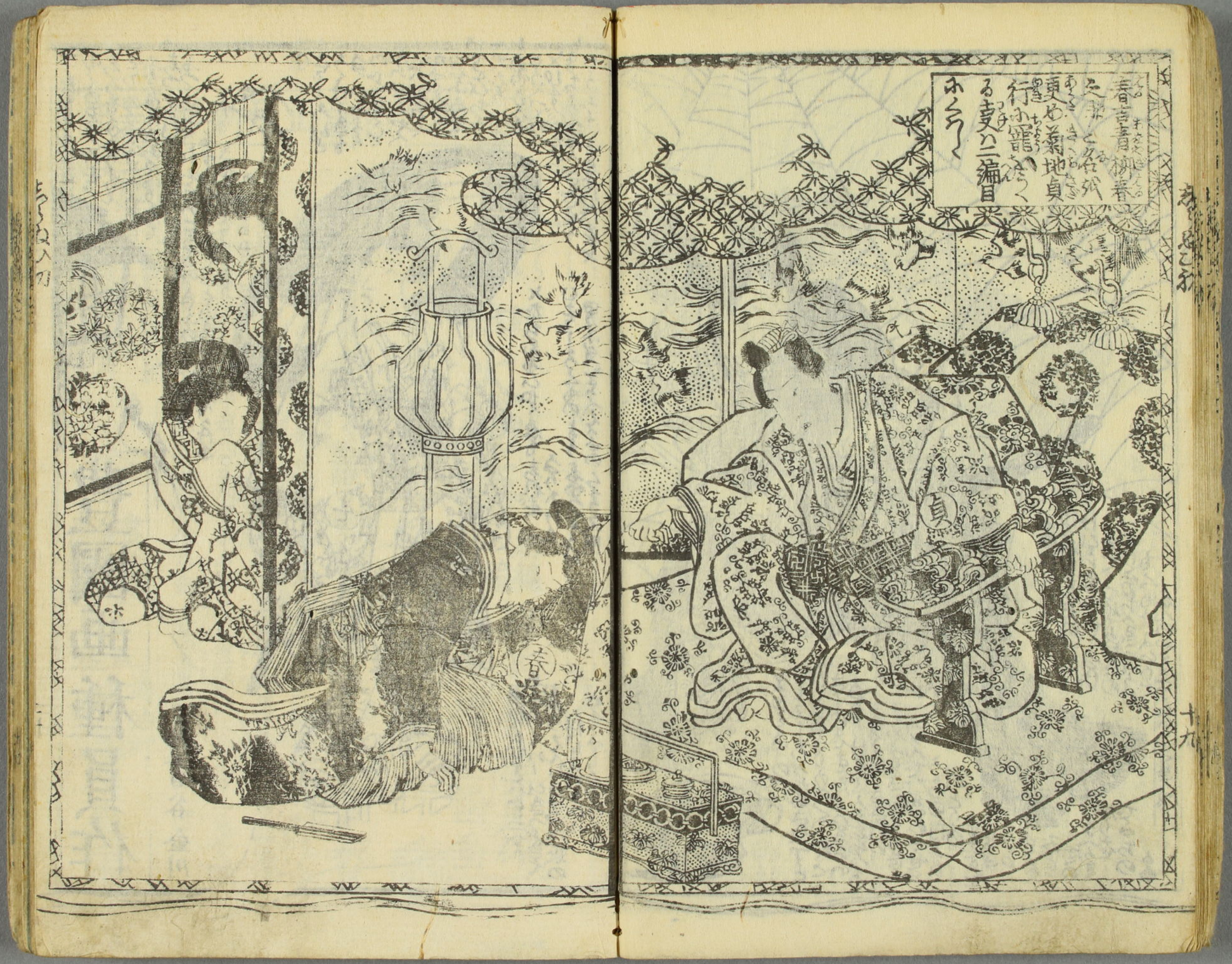
新撰武者絵
十四
十五

左の上
つぐこゝろぐ
もカのらぞーをあ
しとだうりぐられば
女ハあとーこうちけ
百年この沈ふさと
山のぬしと人もしる
大女化く隠れい
ゑぐらひつゝこの
山へハをま山ろとも
れざりしこの一家
ゆるぞかゆいとれ
ユさてられあと
ろふるりてをえければ
まをあろらうまてけふ

ときめもこちまをゞめこう
時ふかの人又ゆよう
あれこもすぶれあらう
ところとあんをゞ
ふけさのあらるそう
なんがあとく刑ゑきこ
きくちをこうこうきりこそちを
ゝめらちをくろうこうそのたで
のをこうをうちあれるまをとゆ
うちふひとうのこうもかにユかせう
うろまをうをこうをもをこ
ちこう世ハクふれとれユらあ
ゆもきこう
ゆのこう
うくかふ
のたあふ
ちろこれう
ゝこうこのうふ
えゝこをま
きくちゞせあゝ
たとゝうかゆゞあらうとを
こうゞくふものとゞちをーとゆふ
ようのこちゃくあゝうの岩をひき
おこてゆこうゞかたこうちつゝれば
ひとうものこゝをもしーけこう
右の下
さうは
ゞ人を
ゝ
左へ



此ものくふと
山たちの名へ
のちの業をも
ふくとかる


春吉青柳春之粉と名付ける紙
更め菊地貞
行の雷
る支ハ三編目
みくり

嘉永二年己酉歳正月新彫

不知火物語

初編 二編 柳下亭種員作
出版 香蝶楼豊國画

第二編 若菜姫 蜘蛛の術 身を変じて菊地の家
うかふ支子草四郎青柳春之助と云る名ゝ貞行は媚國と撮合
支菊地家第一の忠臣烏山大膳之助が生立初編の口画にあらる薩澤
夏之丞雪岡久治郎両人の美少年のおとろへ黒闇おとしが身上を説

三編 四編 と巻次第年々出板仕た御一覧の高評奉願上候

玉壺生肌膏 制毒薬不動毒薬 三十六丸 玉楼
即功紙 反魂丹 二十四丸 柳下亭
勝手次第ご所望の品包紙仕候

書物類 下直奉 通油町
東錦画差上候 藤屋慶治郎

志羅
努飛
再板
二編上
柳下亭持

此編二の巻ゝ假用せる海士の話曲ゝ奈良ゝ御宇藤原淡海公唐土
より傳来せ一面向不背の名玉を讃州志渡の海中ゝ失ひ彼所の延蚩
ゝ契ゝ紙ゝ玉と海底ゝ探せゝ延蚩ゝ節義ゝ身を捨て千ヨ翁の浪間ゝ
潜り龍神の守護ゝ詣ける名珠と奪ひ去ゝ悪龍毒魚の追かけるゝ
詮方なくて乳の下と殺玉と呑ゝ浮出ゝ乳母ゝ忠義ゝ
翻案て綴んとする腹稿もまだ成ず内ゝ龍神の追ゝ烈ゝ書房の催
促心急て胸ゝ浪をる志渡浦ゝ因ある二條院讃岐ゝ意歌ゝ
なりそ浦ゝ波まかなりて かつぐ蜑の息もつきあまりのとゝ和ゝ
嗚呼有磯海の深くもあらぬ浅きオりて作らぬ物語の案ゝ乱ていがゝ
きの白水郎の息ゝもいと苦き稗官の腹裏ゝて

嘉永庚戌献歳

柳下亭種員記

新清水寺

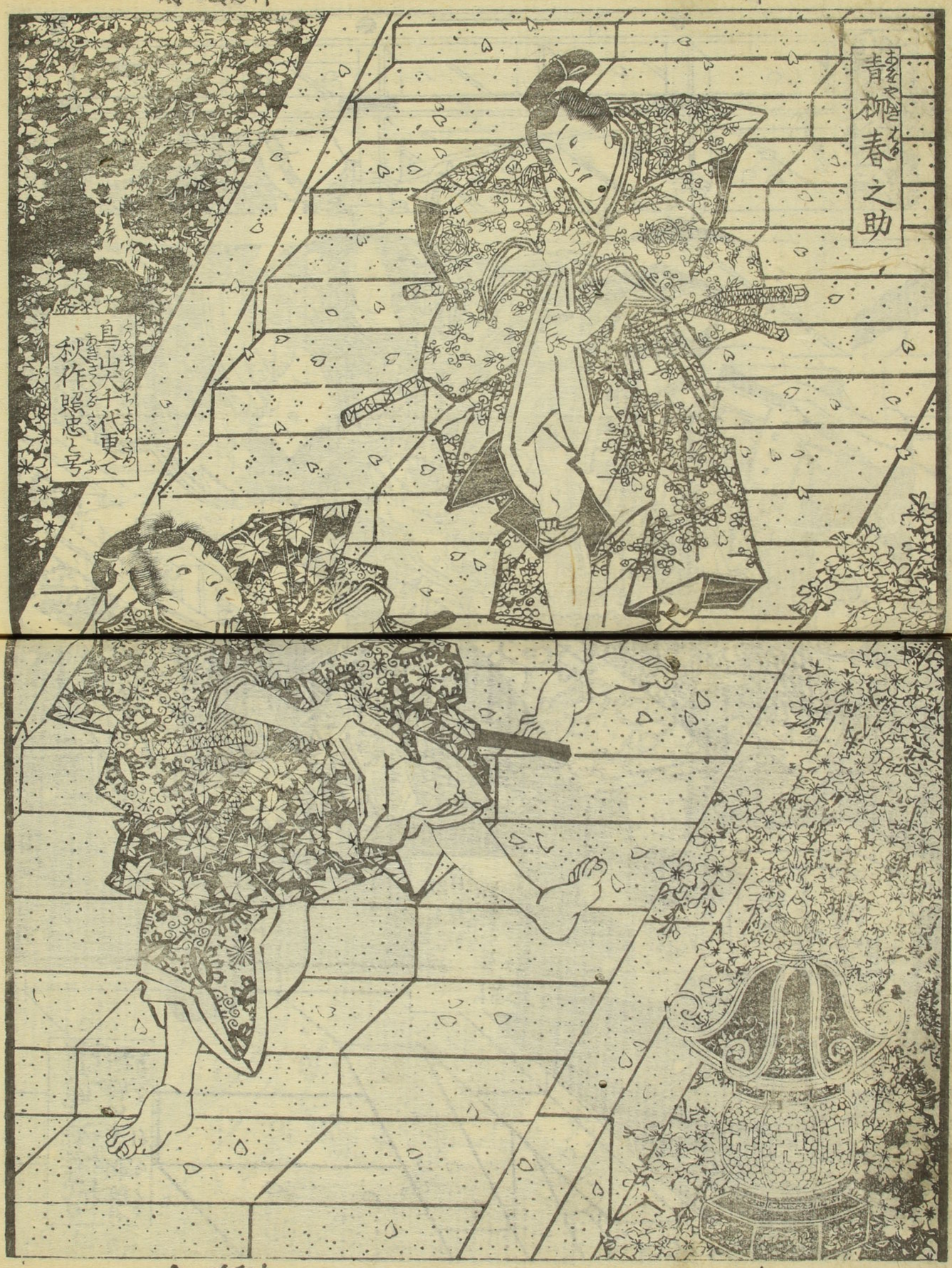
若菜姫

鳥山の乳母秋篠

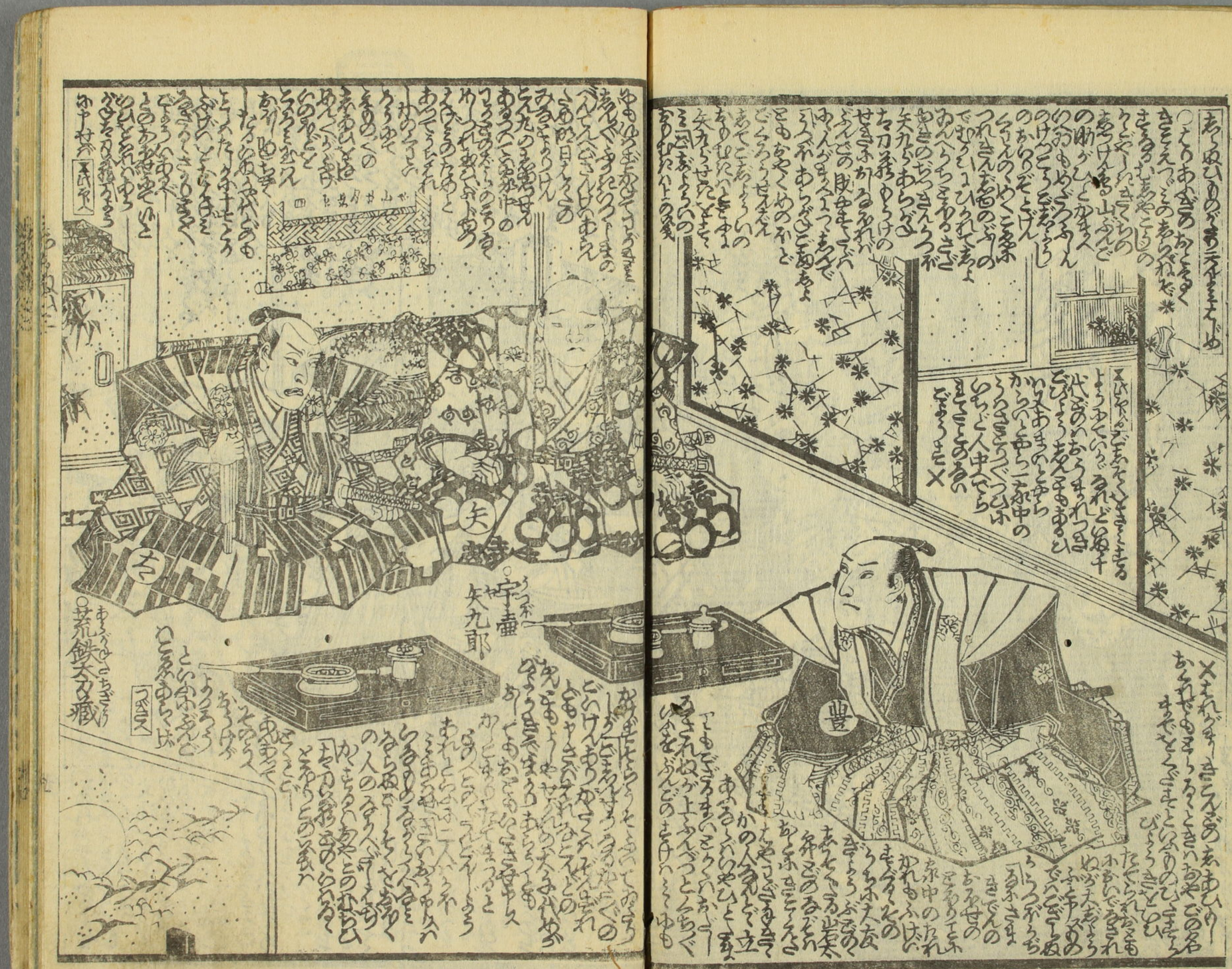
ゲ一子　龍川小文治

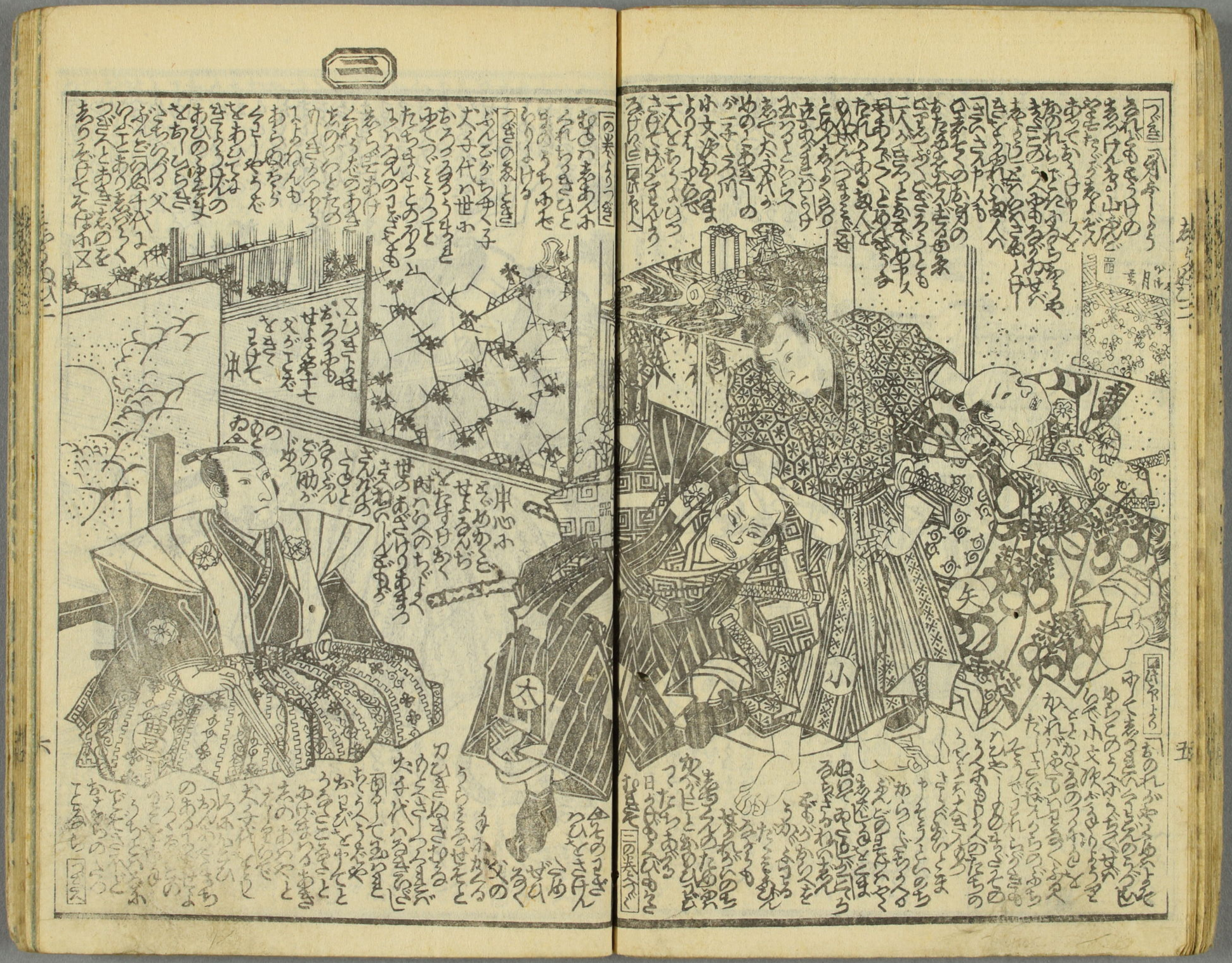
大友刑部宗連の

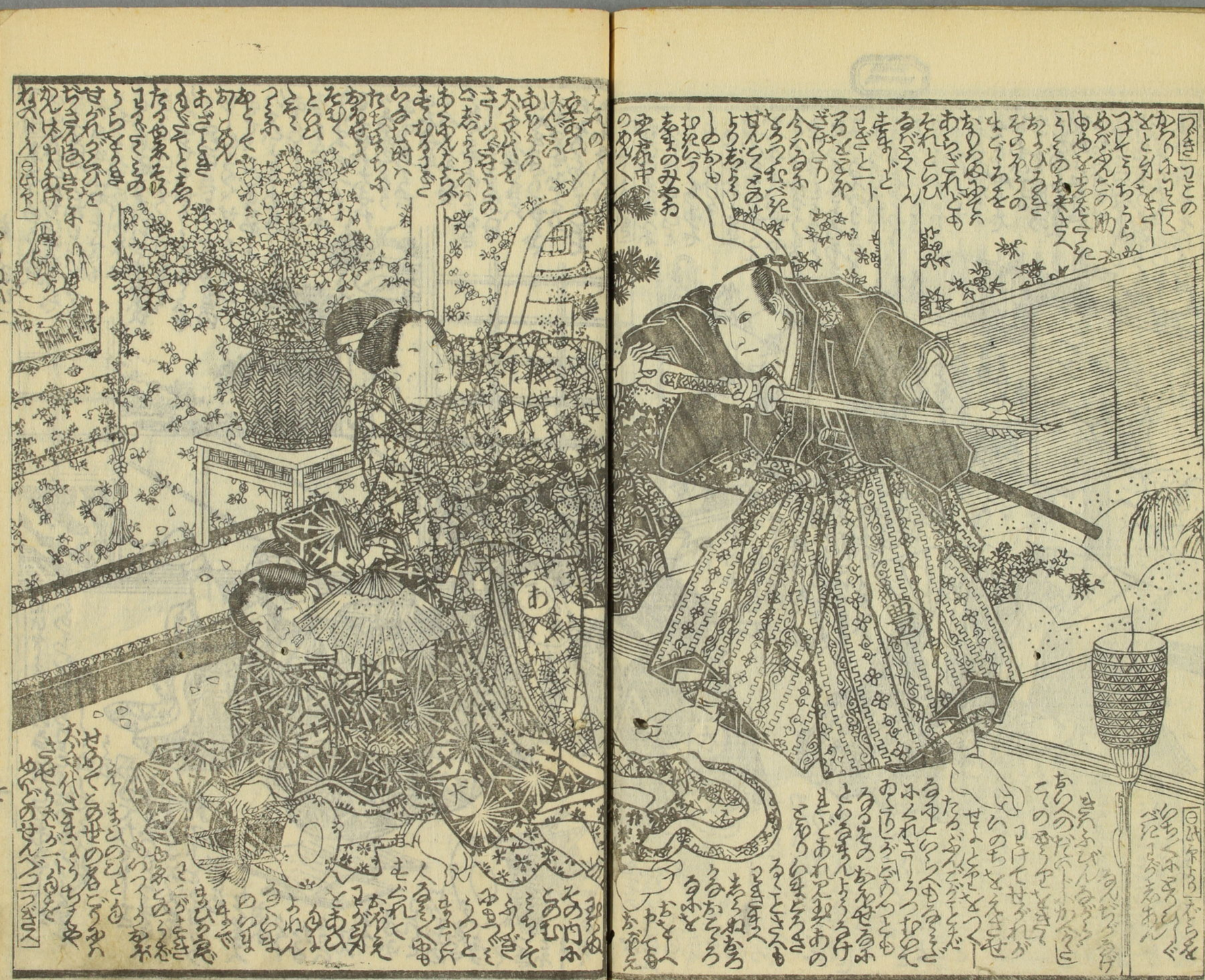
嫡子嚴太郎猛連

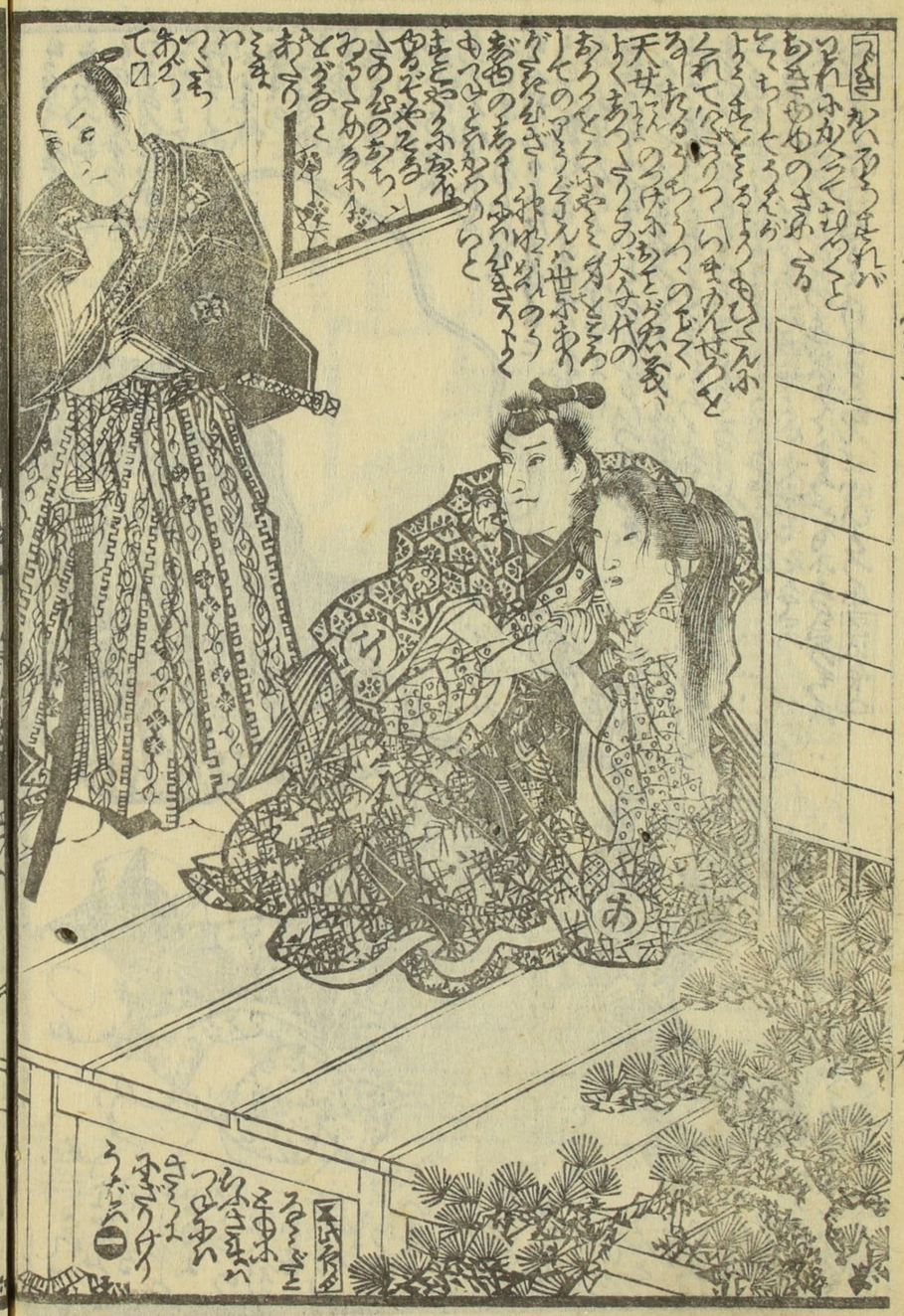

青柳春之助
鳥山六千代更て
秋作照忠と号

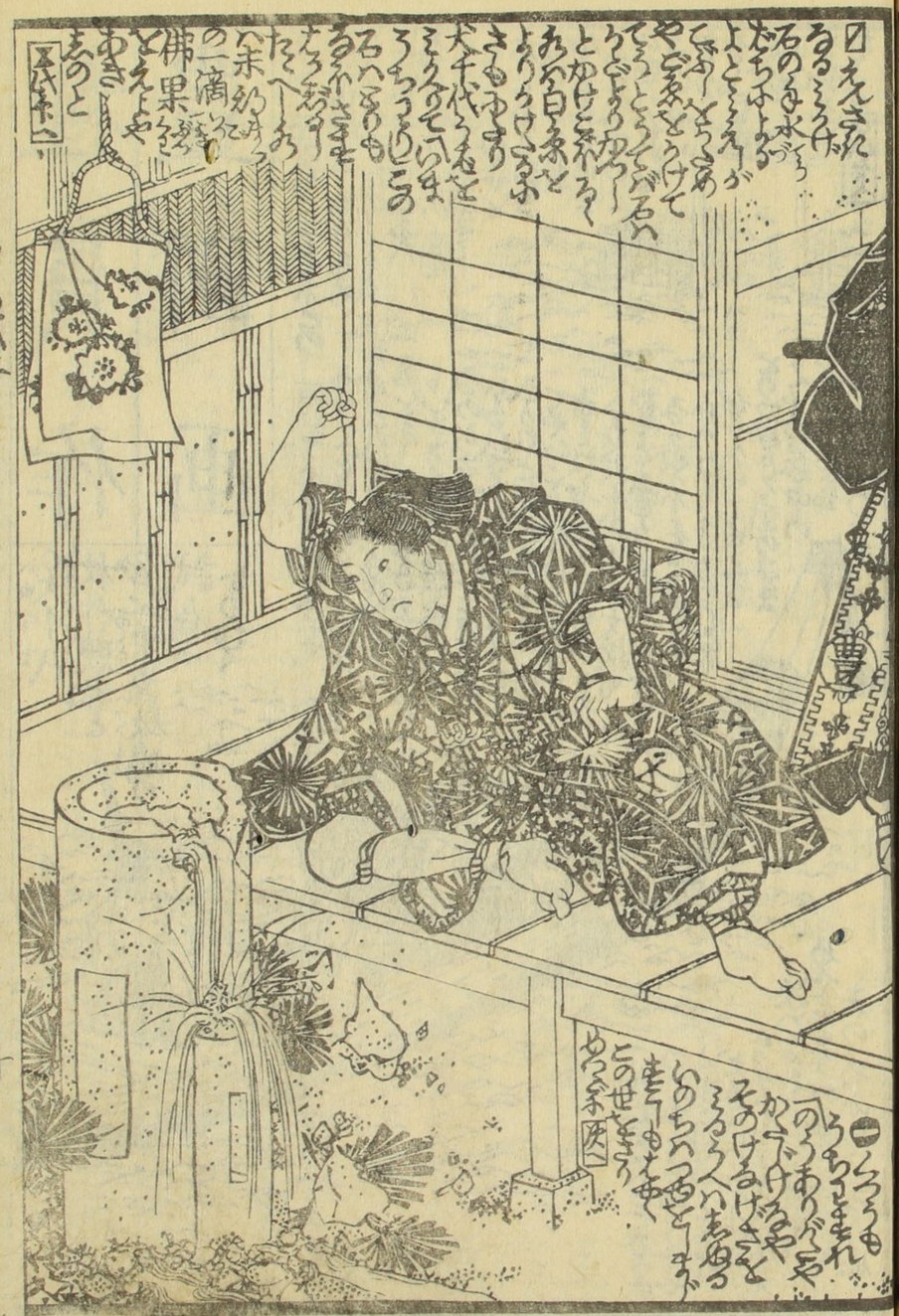
海賊の魁首
玄海灘右エ門
猶本名あらの後巻ところ
博多の傾城
小女良
後巻に出る
菊地家の執権
鳥山豊後之助保忠


豊
矢
右
宇壷矢九郎
荒鉄太夫藏

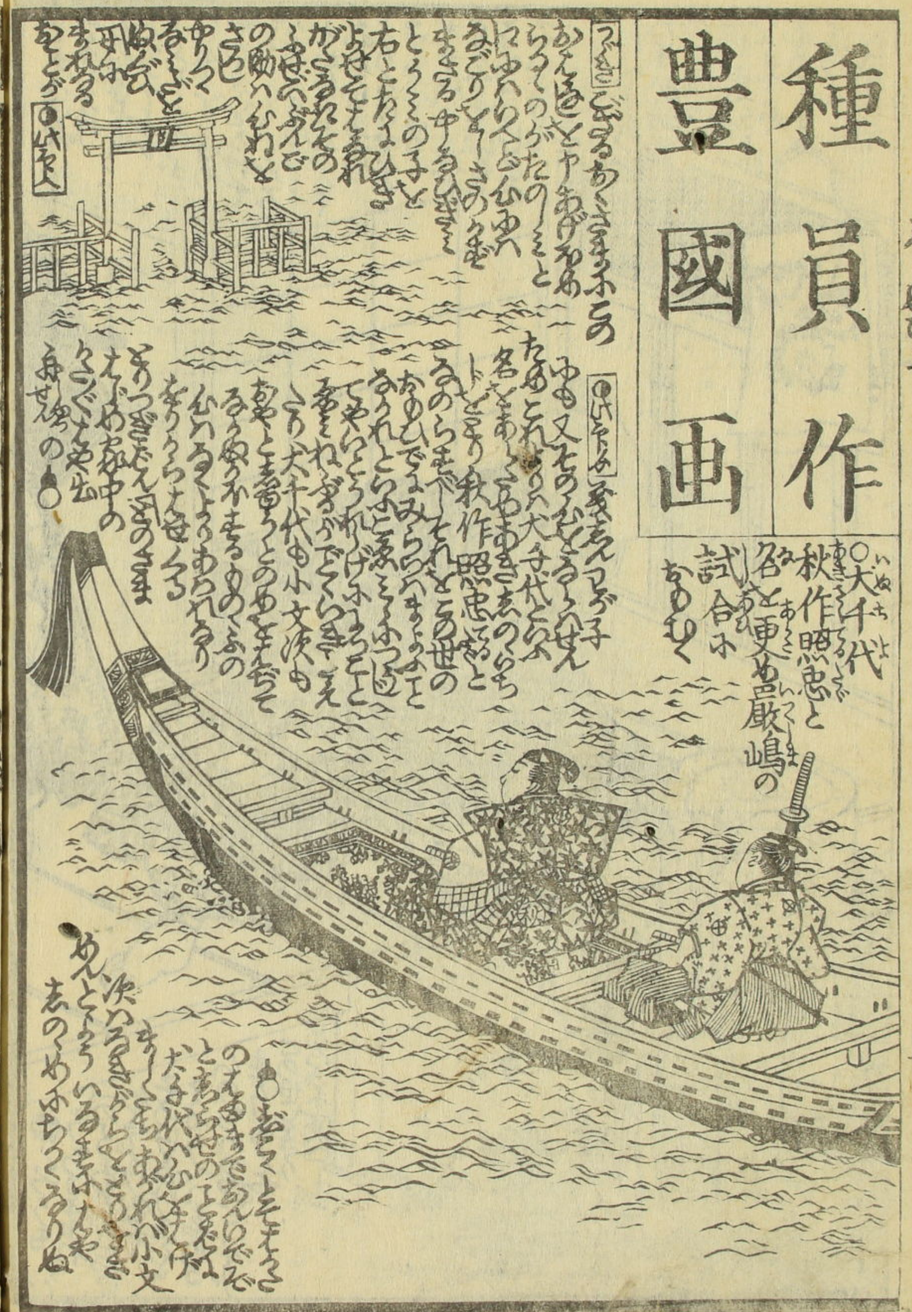

つゞき
二の巻
つゞき
大
小
矢







種員作 豊國画



嘉永己酉初春新鐫目録

實入秋花野苅萱 初編三編 柳下亭種員筆話 當春出板 雄齋國輝圖画

妻ハ自然 源氏雲弦月 初編二編 柳下亭種員譯 出板 彫江 同 勇齋國芳画

新編歌俳百人撰 仮入 柳下亭種員著 出板 一冊香蝶樓豊國画

輪廻報 いとさくらこの中本同 出板 三巻同 作画

兄ハ濡髪 忠孝雙葉々二編同 出板 同 作画

乗合咄 六編種員作 七編豊國画 当春出板

鍋計如々車 初編同 二編同 来年二出板

浪華大物合戰 小本 十農 見立もどき八 江戸 仮入 寿楽全盛もどき六 大嶋墓猫嫁入 同 当春出板 種員作

地本類東錦画大安売 通油町 松林堂 藤岡屋慶治郎

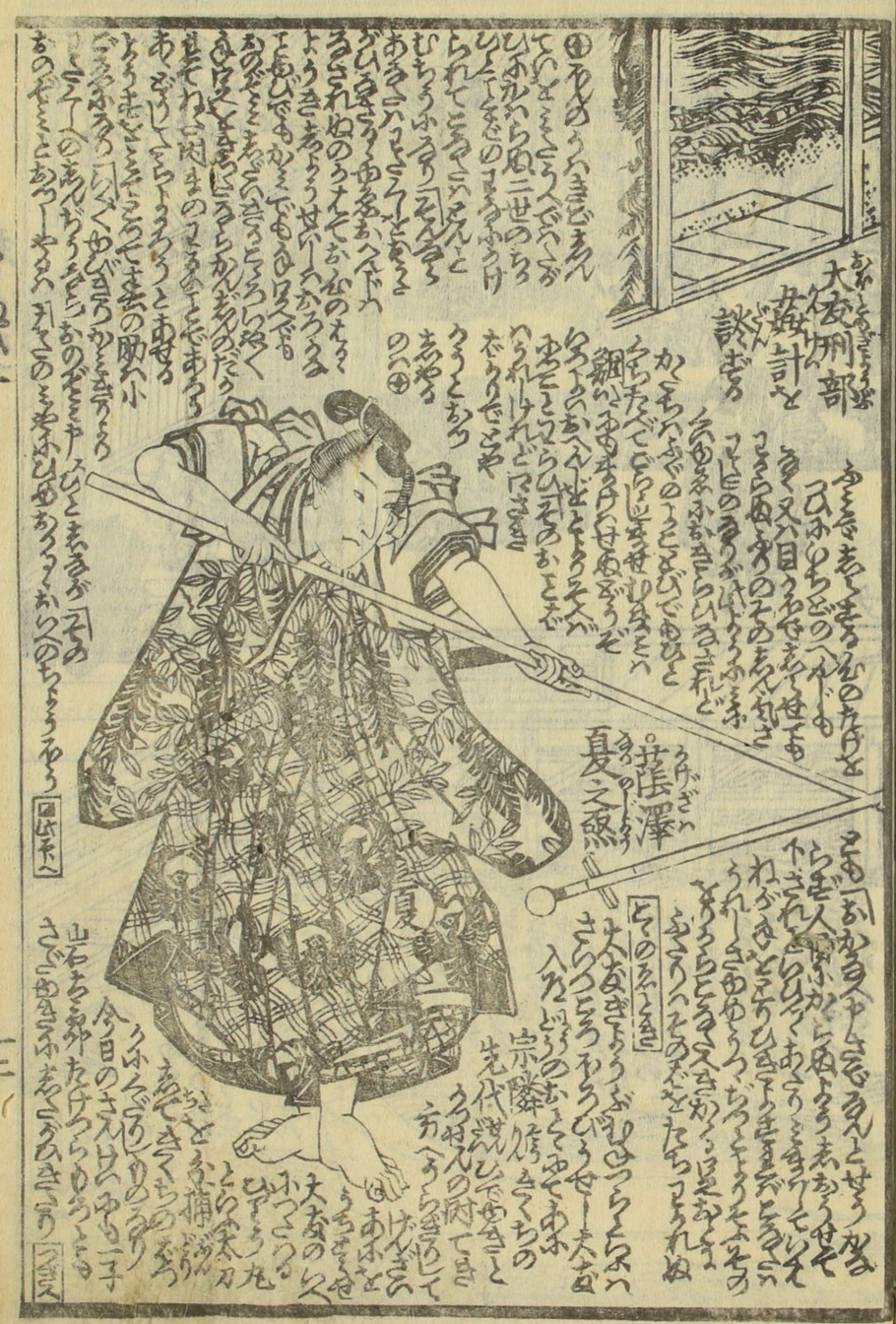
蓑
西
可
考
梨
種員作
豊國画

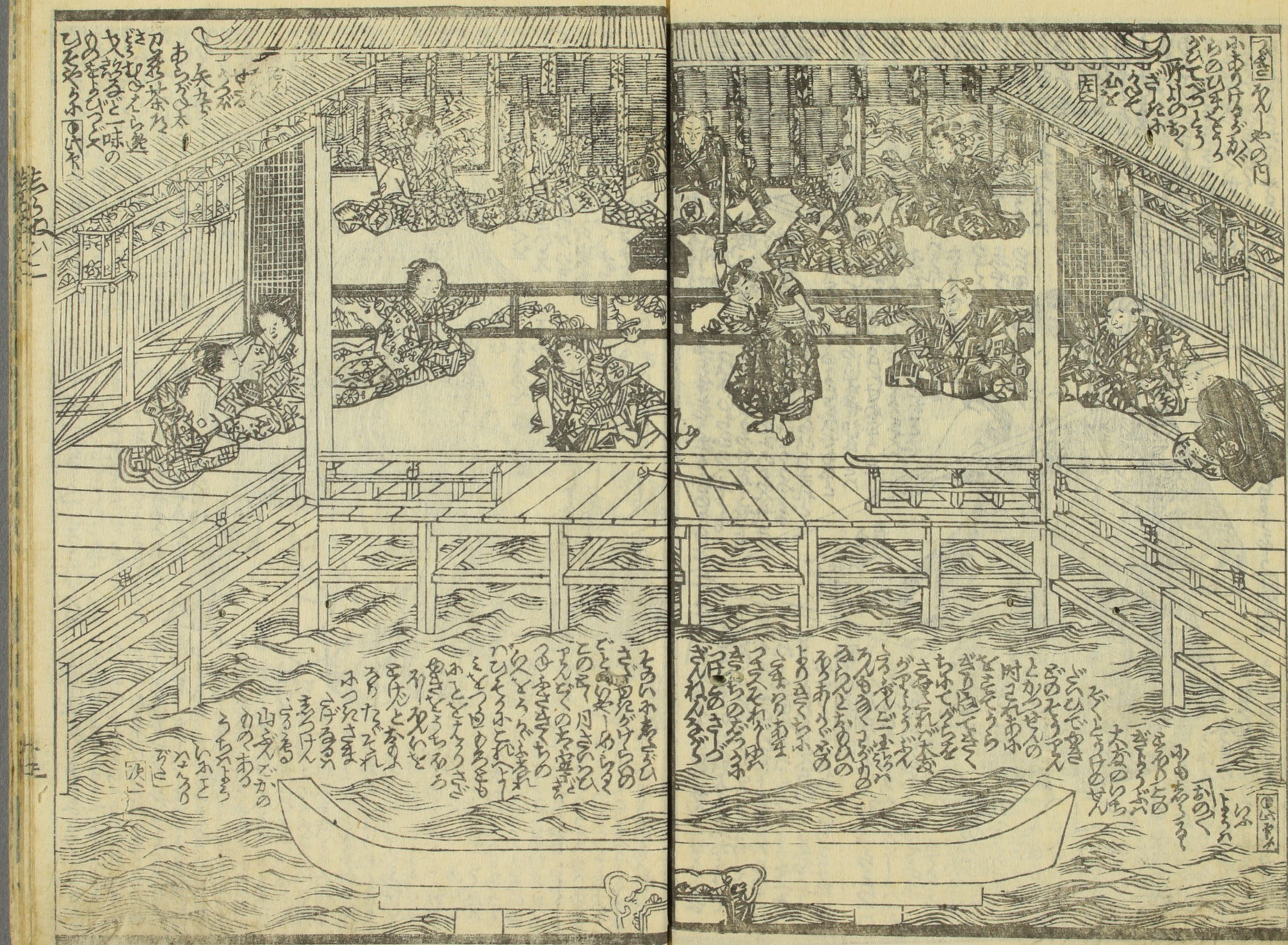
二編下

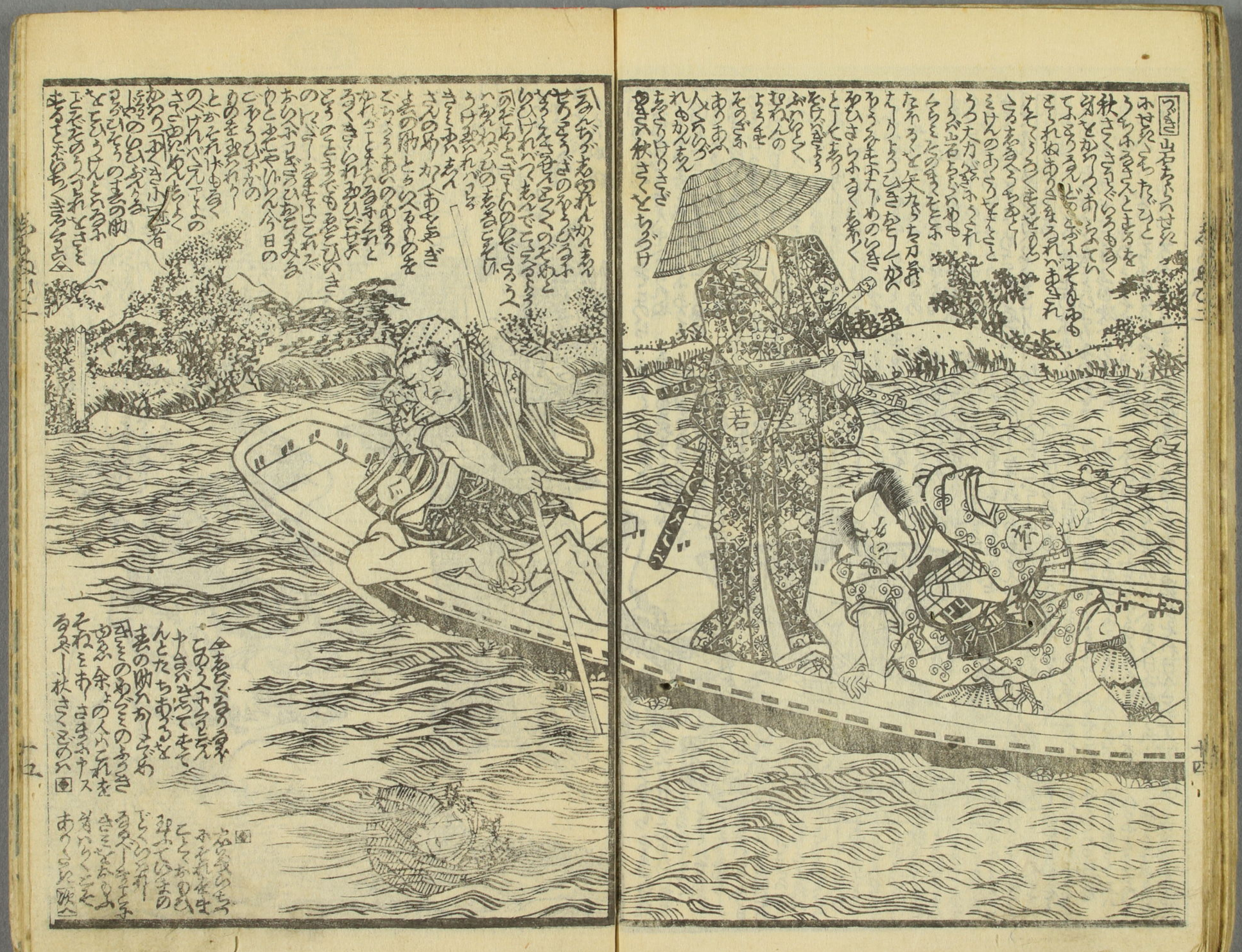
○[illegible]やくげがたち のがりうらの[illegible]
たそ[illegible]さ[illegible]ぎり[illegible]
[illegible]の[illegible]この[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
めのかぶらのたに
これちよふするとおもふおとゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ぎ[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
かさぐふくこれをあめで

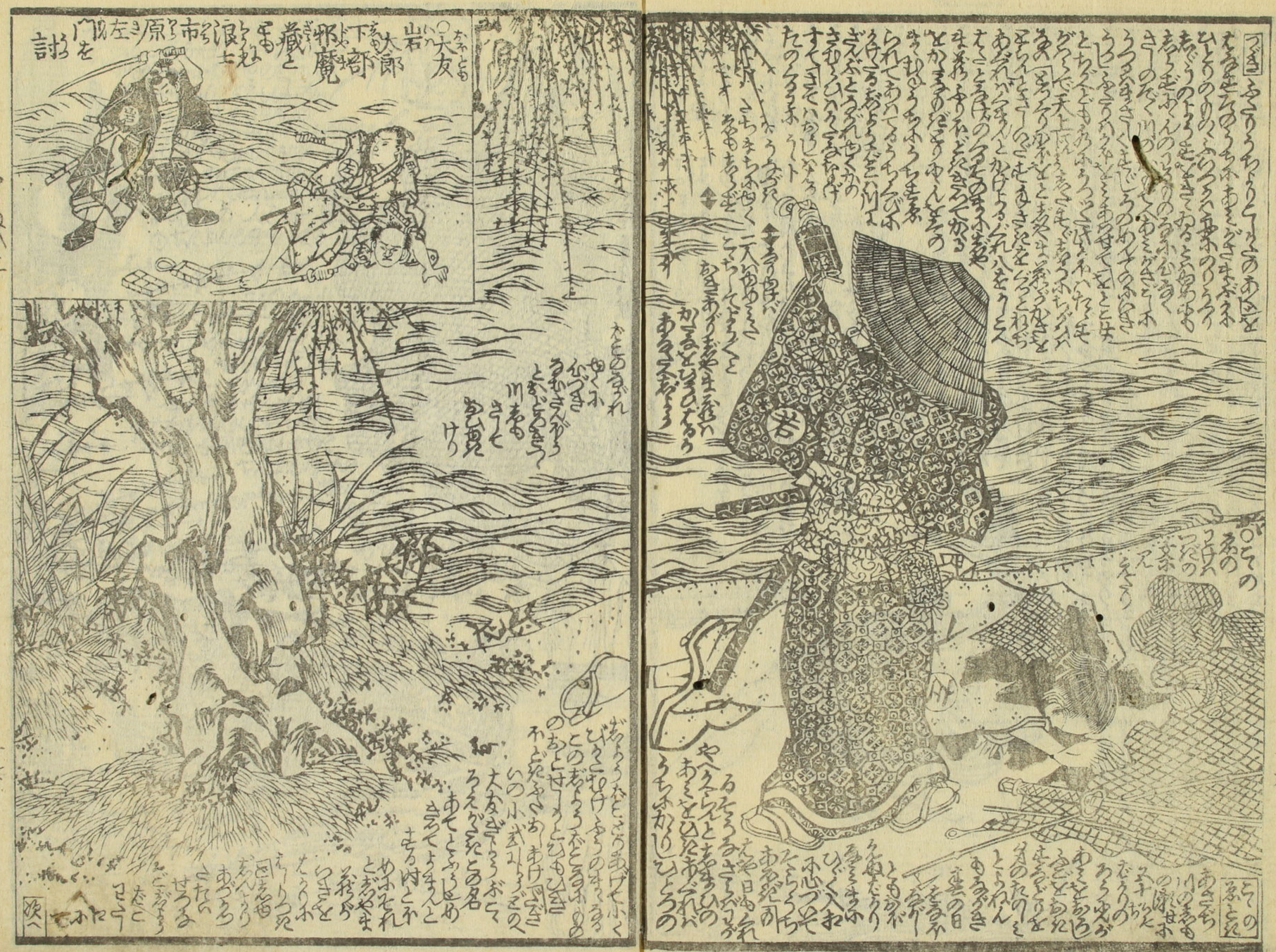
柳下亭種員
國貞画

つぎき
冬
○大友刑部
○同岩太郎
○茶道
宗原逸斎
○嚴島の
別當所
○雪岡
冬治郎


○大友刑部
姦計を
談ずる
○陸澤
夏之丞
夏




若


岩

大友
岩
大郎
下部
邪魔
蔵と
浪七
市
原
左
門を
討

逸斎花街の話をきるこの通いつぎへつづく
と見こまふべー

嘉永二年己酉歳正月新彫

不知火物語

初編
二編
柳下亭種員作
出版 香蝶樓豐國画

第二編 若菜姫 蜘蛛の術 老さまぐぶ身と寝ぐ菊地の家敗
うかふ支子草四郎青柳春之助とつる名ゝと貞行お媚國と擾し
支菊地家第一の忠臣島山大膳之助が生立初編の口画にあぐる薩澤
夏之敵敵三田冬治郎両人の美少年のおとろ黒闇おしが身上ゑと説

三編 四編 巻数追年々出板仕る御一覧を高評奉願上候

玉垂生肌膏 製薬業 王楼
即効 紙二十四孔 三十六孔 仮法師法華高町 杉下亭

書物類 下直奉 通油町
東錦画差上候 藤岡屋慶治郎